



2020年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年7月16日

上場会社名 株式会社 ティーツー
 コード番号 7610 URL <http://www.tay2.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年7月16日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 藤原 克治
 (氏名) 青野 友弘
 TEL 048-933-3070

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第1四半期の業績(2019年3月1日～2019年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第1四半期	4,932	5.2	72		70		68	
2019年2月期第1四半期	5,200	21.4	0		2		13	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第1四半期	1.24	
2019年2月期第1四半期	0.25	

(注)2019年2月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。また、2020年2月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式は存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年2月期第1四半期	6,652	2,099	31.5	38.24
2019年2月期	7,145	2,063	28.7	37.07

(参考)自己資本 2020年2月期第1四半期 2,093百万円 2019年2月期 2,049百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期		0.00		0.00	0.00
2020年2月期					
2020年2月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,500	6.5	120	40.6	100	50.3	40	8.4	0.72

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料5ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期1Q	55,292,000 株	2019年2月期	55,292,000 株
期末自己株式数	2020年2月期1Q	547,478 株	2019年2月期	19,700 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年2月期1Q	55,065,174 株	2019年2月期1Q	54,272,300 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第1四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	5
(セグメント情報等)	5
(重要な後発事象)	5
3. その他	5
継続企業の前提に関する重要事象等	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第1四半期累計期間におきましては、当社が属する小売・サービス業では個人消費が力強さを欠いている中、人件費上昇や人手不足など企業収益を圧迫する要素が多く、厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中で、当第1四半期累計期間の売上高は、重点施策の中古商品の販売が引き続き堅調に推移したことに加え、市場全体の緩やかな回復が見られる新品・中古トレーディングカード（以下、「トレカ」という。）におきましては、その市場動向を当社の業績に結びつけることができました。一方で新品ゲームにおきましては、下落傾向が続き、全体として前年同期を下回ることとなりました。

営業利益につきましては、利益率の高い中古品の売上が順調であったことに加え、事業構造改革による販管費の抑制も奏功し、利益面では大幅な改善を果たすことができました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高49億3千2百万円（前年同期比5.2%減）、営業利益7千2百万円（前年同期は0百万円の営業利益）、経常利益7千万円（前年同期は2百万円の経常損失）、四半期純利益は6千8百万円（前年同期は1千3百万円の四半期純損失）となりました。

(事業の概況)

当社は、「収益改善」を最優先課題として位置付け、各種施策に取り組んでまいりました。当社の粗利の大きなウエイトを占めている古本におきましては、コミックに対して文芸・文庫の売場構成比率を高めるなど、最近の顧客ニーズを反映したレイアウト変更を実施したことが、売上及び粗利の増加に貢献いたしました。トレカに関しても市場活性化を背景に、新規タイトルの拡販及び回転に注力したこと、また一部中古トレカの廉価販売を行ったことにより、客数及び売上が向上し、収益改善に繋がりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期末の総資産は66億5千2百万円となり、前期末と比較して4億9千3百万円減少いたしました。これは主に商品が増加した一方、現金及び預金が減少したによるものであります。負債合計は45億5千2百万円となり、前期末と比較して5億2千9百万円減少いたしました。これは主に買掛金及び短期借入金の減少によるものであります。純資産は20億9千9百万円となり、前事業年度末と比べて3千6百万円増加いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の売上高は215億円（前期比6.5%減）、営業利益は1億2千万円（前年同期比40.6%減）、経常利益は1億円（前年同期比50.3%減）、当期純利益は4千万円（前年同期比8.4%減）を見込んでおり、2019年4月15日付け当社「2019年2月期決算短信」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当第1四半期会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,296,979	799,482
売掛金	229,019	214,709
商品	3,403,276	3,484,387
貯蔵品	15,844	14,601
その他	357,393	285,782
流動資産合計	5,302,514	4,798,964
固定資産		
有形固定資産	543,645	551,548
無形固定資産	30,208	54,959
投資その他の資産		
差入保証金	1,024,760	1,009,630
その他	244,801	237,216
投資その他の資産合計	1,269,561	1,246,847
固定資産合計	1,843,415	1,853,354
資産合計	7,145,929	6,652,319
負債の部		
流動負債		
買掛金	393,166	207,517
短期借入金	936,686	686,688
1年内返済予定の長期借入金	694,959	1,187,113
未払法人税等	78,790	26,074
賞与引当金	28,391	—
ポイント引当金	101,611	99,551
資産除去債務	11,986	10,811
その他	469,722	469,922
流動負債合計	2,715,313	2,687,677
固定負債		
長期借入金	1,328,844	847,076
退職給付引当金	410,591	413,296
資産除去債務	459,985	450,699
その他	167,295	153,605
固定負債合計	2,366,715	1,864,677
負債合計	5,082,028	4,552,354
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,236,123	1,236,123
資本剰余金	1,190,412	1,190,412
利益剰余金	△377,380	△309,316
自己株式	△1,369	△22,369
株主資本合計	2,047,785	2,094,850
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,291	△1,616
評価・換算差額等合計	1,291	△1,616
新株予約権	14,823	6,731
純資産合計	2,063,900	2,099,964
負債純資産合計	7,145,929	6,652,319

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位: 千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
売上高	5,200,172	4,932,031
売上原価	3,687,476	3,385,264
売上総利益	1,512,695	1,546,766
販売費及び一般管理費	1,512,121	1,474,459
営業利益	573	72,307
営業外収益		
受取利息	744	634
受取賃貸料	16,044	18,744
その他	3,179	3,127
営業外収益合計	19,968	22,507
営業外費用		
支払利息	8,414	7,822
不動産賃貸費用	14,767	16,097
その他	—	65
営業外費用合計	23,181	23,985
経常利益又は経常損失 (△)	△2,639	70,829
特別利益		
新株予約権戻入益	459	8,092
特別利益合計	459	8,092
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△2,180	78,921
法人税等	11,531	10,857
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△13,711	68,064

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)

当社は、マルチパッケージ販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第1四半期累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

当社は、マルチパッケージ販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度に当期純利益を計上しており、また当第1四半期累計期間では6千8百万円の四半期純利益を計上しております。しかし、厳しい経営環境が続く中、継続的な当期純利益の計上ができると十分に言えないことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社はこうした状況を解消し、持続的な成長を図る上で事業基盤を強固にすることが必須と判断し、以下記載の通りの取り組みを進め、当該状況の解消又は改善するための対策を講じております。

①構造改革による経費削減の徹底

- ・店舗運営方針の見直しによるコストの適正化

店舗運営においては、事業規模に合わせた商品移動頻度の抑制や、より一層の販促・告知手法の見直しによる経費削減、それらに伴う店舗業務見直しによる店舗業務量の効率化を進めております。

- ・本部体制の再編による組織運営の効率化

前期に引き続き、スリム化された組織で運営の効率化により、全社への利益貢献の最大化を推進しております。

②持続的な成長を可能とする収益力の強化の徹底

- ・中古商材の強化

下降トレンドにある商材をカバーするべく、中古商材の買取を質、量ともに拡大強化し、売場管理の徹底を実施しております。

- ・経営資源の選択と集中(古本市場店舗の強化)

今後当社の売上拡大が見込めるEC部門及びホビー商材の販売を強化し、店舗収益力の強化を進めております。